

明倫短期大学研究会講演抄録

腰 痛

佐々木 聡 助手 (歯科技工士学科)

最近若者の間で腰痛が増加しているという。なぜ腰痛を訴える若者が増加しているのでしょうか？ 原因 1 腰椎及び周辺組織の損傷, 原因 2 筋肉疲労, 原因 3 老化現象, 原因 4 他の器官の病気による関連痛, と色々あるが, もっと身近な所にも原因があると思われる。現代の若者は子供の頃の生活習慣が著しく変わったために, 筋力が低下し, この為, 正しい姿勢を維持することが出来なくなり, 腰痛が引き起こされるのではない。

第63回：2001年9月13日 (木)

<医療面接>の基礎

山田 隆文 助教授 (歯科衛生士学科)

医療従事者と患者との関係は対等であり, 心身共にサポートが必要という全人包括医療という考えから, 看護・医療分野に続き, 歯科分野でも医療面接が導入され始めている。これは, これまでの古いタイプの間診とカウセリングを融合させたもので, その基礎となるものがカウセリングの面接技法である。そのテクニックの中から傾聴・質問法・医療面接者の態度・面接を妨げる因子などについて解説した。

歯科技工の現状と問題点について

相馬 泰栄 助手 (歯科技工士学科)

1999年発行の歯科技工白書によると, 歯科技工士の生活レベルは他の職種と比較しても低い。その為, 技工士会では生活レベルの向上と経済基盤を確立する必要から, 依託技工料を健康保険診療報酬表に明記する事, 歯科技工士の過剰供給を是正する事, 医療関連技工士の制度化を検討している。また, 歯科技工のCAD/CAMオペレーターの制や補綴物の製作者である歯科技工士が, 口腔内で直接調整することができる制度を導入することで, 社会的認知の向上と経済的基盤の確立が得られるものと思われる。

第64回：2001年9月27日 (木)

口蓋裂幼児患者の術後言語成績 — 30年間の手術例による比較検討から —

伊東 節子 教授 (歯科衛生士学科)

口蓋裂幼児患者の術後言語成績について1960年代手術例 (対象1), 1970年代手術例 (対象2) および1980年代手術例 (対象3) として30年間の言語障害, 特に質的面的変化について検討を行った。これは言語障害4型・構音障害 a.b.cによる分類を用いた。その結果, 最近例の手術例 (対象3) ほど, I型, II型 (鼻咽腔閉鎖不全による言語障害) および構音障害 b型 (口蓋化構音, 側音化構音など) の出現が少なかった。このことは改良された手術法の実施と関連があることが示唆された。

若者の好むブラシ ～歯科衛生士学科1年入学時の調査より～

佐藤 裕子 助手 (歯科衛生士学科)

入学間もない学生を対象に使用歯ブラシについて調査した。その結果, 1位はDo (サンスター), 2位はGUM (サンスター), 3位はCHECK (花王) で, いずれもヘッドが小さめでハンドルも握りやすく市販品の中でも理想的な歯ブラシが使われていた。購入にあたり安価で形・色などデザインも重視され, テレビCMの影響が大きいことが伺えた。今後歯科衛生士をめざして歯ブラシに対する意識がどのように変化していくか教育効果を追跡調査していきたい。

第65回：2001年10月11日 (木)

歯科衛生士の就業および離職・転職に関わる要因

大平 章子 教授 (歯科衛生士学科
専攻科保健言語聴覚学専攻)

歯科診療所に勤務する歯科衛生士の離職・転職率は高く, 非就業有資格者が多数存在する。これには, 職務満足度, 業務内容, 待遇, 労働環境, 歯科医師との関係, 就業観, などの要因が複雑に絡み合う。離職・転職要因を多面的に捉える目的で, 歯科衛生士および歯科診療所長を対象に実施した質問紙調査の結果を一部用い, 離職要因, 就業時の重視要件について分析した。労働条件・労働環境の不備が著しく, 就業継続を困難にさせる一因であることが示唆された。